增補
頭書
訓蒙圖彙大成
八

頭書増補訓蒙圖彙巻之十七

菜蔬

此部ふれハ多くの野菜苑蔬のたぐひをしるす

○蕪菁ハ食を消し氣を下し嗽をやむつねにふかくくへバ中を通じ人をこやかならしむ

○萊菔ハ氣を下し食を消し痰嗽を治し中をわくくめ大小便を利を

○芹ハ頭中の風熱をさり酒後の熱をさまし大小腸を利し血氣を益

○葱ハ汗を發し風を去

蕪菁

芹 水斳 同

萊菔

蘿蔔 同

小べんを通じ魚肉の毒をころし中をあたゝめかぜをさる
○韮は胃熱をのぞき中をあたゝめ虚をおぎなひ血のめぐりをよくす
○蒜は脾胃を敗し中をあたゝめかくらん臓中やをめぐらす痔を
○薤は水氣をさり中をあたゝめ不足をおぎなひ痢をとゞめ腸によし氣をくだす
○菠薐は酒毒を解し胸をひらき氣をくだしかはきをとゞむ

葱 そう ねぎ き
葱針 東葱
韮 きう にら
豊本同
菠薐 はうれんさう
薤 がい おほにら
䪥同
蒜 さん ひる にんにく
葫蒜 山蒜
胡葱 あさつき

○胡葱ハ中をあたゝめ氣をくだし食を消し虫をころしそれを治す

○芋ハ腸胃をゆるし肌をみち熱をさり渇をやめ胃をひらき宿血を中ず

○薯蕷ハ虚をおぎなひ氣力を益し陰をつよくし腰のいたみをとめ腎をます

○牛房ハ中風よのいたみ脚氣風どくせんきうには面目はれいたむにもよし

○胡蔔ハ氣をくだし中をおぎなひ腸胃を利し五臓をやすんじこゝろよくに益ありて損なし

○苣ハ胸膈をひらき筋骨をつよくし目をあきらかにし乳汁をつうじむしをころす
○芥ハ腎経の邪気をのぞきよこれせれを治し胃をひらき膈を利し九竅を利す
○薺ハ肝を利し中をやはらげ胃をましえぐうを利す
○莙薘ハをぢれ○をおぎなひ胸のふさがるをひらき熱を解す
○天蓼ハ中風口ゆがミけんべきくるり女子の虚労を治

苣 きよ ちさ
莴苣 せんご
萵苣 ちさのと

芥 からし

莙薘 くんたう たうちさ

薺 せい なづな

○蕗ハ茎あるひハてぶき
し莖ハ煮てくらふに宜し
款冬と和訓同じきゆへに
あやまる事多し
○蘘荷ハ蠱にあたり沙虫
蛇毒を解を多くくらへバ
脚に利あらず
○莧ハ氣をおぎなひ熱を
のぞき九竅をつうじ大小腸
を利し瘕を治す
○獨活ハ痛風を治し中風
濕冷逆気皮膚かゆき
足ひきつるを治す
○瓢ハ脹を消し虫ところ
し痔下血を治し血崩
赤白の帶下を治す

天蓼 またゝび
蕗 ふき
蘘荷 めうが
莧 ひゆ
野莧 のひゆ
獨活 うど
めうがのこ
ふきのとう

○瓠は口中のくさきいきをむと治し水道を利し心熱をさる也心肺をうるをす

○瓜はすべて小便をつうじ渇をとめ熱をのぞき大腸をゆるくす羊角瓜

○冬瓜は小便を利し渇をやめ気をましひものつくをのぞき熱をさる

○蕈は気をまし風を治し血をやぶる地に生ずるを菌といふ木に生ずるを蕈といふ

○胡瓜は熱をとをざけし渇を解し水道を利す小児にはいむ

瓠　こ　ゆふがほ

瓢　ひさご

蒲盧

瓜　くは　うり

冬瓜　とうくわ　かもうり

○醤瓜は水の気を利し中をおぎなひ毒気を消す
○絲瓜は皮をさりてくらふべし腫のわるき気をはらふによし熱をのぞき腸を利す
○山葵はひえものゝいたみを治し食をすゝめ気を利し瘡をひらく
○茄は血をさんじいたみをとめ腫を消し腸をゆるくし瘡をなほす銀茄もおなじなもとびあり
○雞腸は毒腫を治し忘るくいだるをとるよし人に益あり
○薊は宿血をやぶり胃を

蕈 たけ
松蕈
香蕈
胡瓜 きうり
山葵 わさび
山姜同
絲瓜 へちま
醤瓜 あをうり

きられ食をもどし吐血(とけつ)衄血(ぢくけつ)をとゞめ熱(ねつ)をさりぞく
○藜(あかざ)は虫(むし)をころし痢ふひぞを治(ぢ)を脾胃(ひゐ)虚(きよ)寒(かん)の人ふハ用(もちゆ)べからず
○馬莧(すべりひゆ)はつんびやうを治(ぢ)し血(ち)をさんじまれを消(せう)し腸(ちやう)を利をもちて女子くふだりを
○薑(はじかみ)は胃(ゐ)をひらき血(ち)をやぶる風邪(ふうじや)をさる菌(きのこ)の毒(どく)を解(げ)し祚咽(ゐんの)ふ通(つう)ず
○蕎蓬(やまごぼう)はえきうをととのし水気(すいき)をさんずるあつきものハ人を害(がい)を食(しよく)をとべからず

藜(さい) あかざ

茄(か) なすび

水茄(みなすび)

馬莧(ばけん) すべりひゆ

雞腸(けいちやう) よめがはぎ

薺蒿(せいかう)同

薊(けい) あざみ

○蒟蒻は消渇をとゞめ血をくだし又疝を消し癰を治し労を治し疱瘡せざる小児よいのむべし
○蘩蔞は年ひさしき悪瘡痔愈ざるに血をやぶり乳汁をつくりさんの女ぞのむべかるぞ
○蒲英は乳癰水腫に汁にしてのむべし食毒を消し滞氣をさんず
○蕨は熱をさるし水みちを利しちざうの不足をおぎなふなり
○狗脊はぜんまいなり俗よいなるくびといふ疝氣を

薑
姜同
商陸 やまごぼう
蒟蒻
蘩蔞
蔞蒿同
蒲英 たんぽ

治し帯下をいやし
○蓴ハ腸胃をあつく氣を
くだし嘔をやめ下焦を安ず
○瓣ハうりのたねなり薬
に用ゆ膈噎嘔逆を治す
○瓤ハうりのなかごなり瓤
犀同橘柚の肉をも瓤と云
○芝ハ渇をやめ人の顔色
をまし神をつよくし智をまし
氣をとゝのへ延るなり
○鹿角ハ風氣をくだし小
児の骨蒸労熱を治し
麺の熱毒を解す
○石花ハ上焦の浮熱を去
下部の虚寒をよくす
○昆布ハ水腫を治し面

うるむ
○苔菜(あをのり)は乾苔(かんたい)ともいふむしをころし痔(ぢ)をくらんおづきを治(ぢ)す
○木耳(きくらげ)は氣(き)をまし身をかろくしこゝろざしをつよくし痔(ぢ)を治(ぢ)す
○革薢(ひかい)はところあり黄薢(くわうかい)ともいふ又野老(やらう)ともいふ味(あぢ)にがしよく疝(せん)氣(き)のむしをころすとあり

燕窩(えんを)

木耳 しきくらげ

革薢(ひかい) ところ

苔菜(さいさい) あをのり

石耳(せきじ) いはたけ

紫菜(しさい) あまのり

頭書増補訓蒙圖彙巻之十八

果蓏

此部にはくだものゝたぐひをあつむ

○杏ハわりさしきそくく ハ渇をとめ冷熱の毒をさる 仁ハせきをとむ

○梅ハ生ハ多くくへバ歯を損ず 仁ハ肉がわるくなし 白梅ハ痰をのぞく

○桃ハ生ハ瘡疾をば 仁ハ瘀血をさんじ大便をつうず

○李ハ労熱をさる 肝病に食すべし 麦おなじくじゆく実なるが麦李といふ

桃 もゝ

杏 からもゝ あんず

梅 むめ

李 すもゝ

○梨ハ熱嗽をやめ渇をとゞめ痰を消し火をくだし肺をうるほす

○柰ハ中焦よろしくの不足の氣を補ひ脾を和し氣ふさがるを治す

○棗ハ脾胃をやしなひ津液を生し心腹の邪氣をさり心肺をうるほす

○栗ハ氣をまし腸胃をあつくし腎を補ひ腰脚のなへたるを治す　葛栗　杭子

○柚ハ食を消し酒毒を解し腸胃の悪氣をさり婦人孕て食をおもはざと口渇を治す

梨　なし

棗　なつめ

栗　くり

柰　からなし

柑　くねんか

柚　ゆ

○柑は腸胃のうちの熱毒を
利し口渇をやめ小便を利
○枳は大便をつうじむねのつへ
をさる痰を消し脾胃よ
わきりの[illegible]べりを
○橘は消渇をやめ胃をひらき
膈中のふさがりをのぞく
○榧はすべて白虫を治し食を消
し目を明らかにし欬嗽白濁
をやめ痔を治す
○柿は[illegible]を利し酒毒を解し
胃中の熱をさる
○椎は腸胃をあつくし人をして
肥をとやゝならしむされて
○榛は気力をまし腸胃を実
らしくうへを

枳 からたち きこく
椎 しい
橘 たちばな
榛 はしばみ
柿 かき
榧 かや

しんをますをこやし胃を
ひらく
○楮榴は喉のかわくを治し三尸
虫を制し味ひ酸甘の二品有
○來禽は氣をくだし痰を消
し霍乱腹の痛消渇を治す
○葡萄は痳病をひもを治
腸間の水をのぞき久しく
くらへば身をかろくす
○金柑は氣を下し胸をくつろげ
かし渇をやめ二日醉を治す
○銀杏は生にてくは酒を解し
痰をとし虫をころす熟し
たるは小便をちぢむ
○枇杷は吐逆をとめ上焦の熱
をひさぐ氣を下し肺氣を利す

楮榴 ざくろ

葡萄 ぶどう えび

金柑 きんかん

鴨脚樹

盧橘 同

來禽 りんご

銀杏 ぎんなん

○枳椇ハ五臓をうるほし大小便を利し酒毒を解す
○楊梅ハ氣をひらき腸胃をそゝぎ渇をやめ痰をさりゑづきをとゞめ食を消す
○茘支ハ渇をやめ顔色をまし煩を除き頸かうちれを治す
○苺ハ氣をまし身をかろくし虚を補ひ男ハ陰を女ハ子あるをよし
○佛手柑ハ氣をくだし痰を去水をのぞく酒に煮てのめバ痰咳嗽を治す
○胡桃ハ肌をうるほし髪を黒くし多食へバ小便を利す
○榲桲ハ中をあたゝめ氣を下し食を消し胸の間の酸水

茘支
離支同

枇杷
一名炎果

楊梅 やまもゝ

枳椇 けんかのなし

苺 いちご

樹苺
覆盆子
蛇苺

香櫞

佛手柑同

とのぞん水浮を治し酒氣を散ず
○木瓜は脚氣筋ひきつるをかくらんを治す
○菱は中を安じ五臓を補ひ酒毒を解し渇をやめ丹石の毒を解す
○茶は小便を利し痰熱を去り渇をやめ眠りをすくなく食を消し目をあきらかにす
○椒は風邪の氣を除き中をあたゝめ女人の經水を通ず
○胡頽は久痢を治す寒熱の病には用ゆべからず
○葧臍は風毒を消し耳目を明かにし胃をひらき腸胃をあ

木瓜 ぼけ
榲桲 まるめろ
核桃 くるみ
核果 同
胡桃
茶 ちゃ
椒 さんせう
菱 ひし

つし血痢とはらさとる
○慈姑は産後ふむしをせめ
死せしと難産あるにするを治
○枸棗は心をたつの熱をとめ
消渇をとめ久しく服すれば
寿久をたもつべし
○松子は諸風骨ふし痛頭
ふらめぐにはよろし
○龍眼は胃をひらき脾を益
虚を補ひ智を益すを久しく
服すれば志をつよし身をかろ
くして老ず
○耳蕨はさたろの本なり
よく脾胃をやしなふ
○胡椒は中をあたため痰を去
腹痛をやめ胃口虚冷を治す

胡頽 ぐミ
勃臍 くろくわい
慈姑 くわゐ おもだか
茨菰 同
枸棗 さうかき
松子 まつのミ

○王瓜は火をとじ咳を治し
痰をさらしのどを利を
土瓜 赤雹子同
○燕覆は膀胱を治し癰を
消し腫をさんじ経絡乳汁を通す
○甜瓜は熱をのぞき小便
を利し煩渇をとどむ暑
月に人は暑にあてらるるを
○苦瓜は邪熱をのぞき労
乏を解し心をきよく
し目をあきらかにする也
錦茘枝 癩葡萄
○烏柹はあまがしなり
火柹同 醂柹はさわしがき
烘柹はこねりがき 白柹はつる
しがきなり

○蔕ハ瓜の蔕柹の蔕なるべし蔕につくる壼是同
柹茄などのへたなり
○莢ハ橋櫟などの實をいる房なり俗ふさと云
○仁ハくだものゝ核のうちにあるものなり
梅仁桃仁杏仁なとを藥にもちゆ
○核ハ梅桃そのほかすべてくだもの又ハ瓜茄のたね
核の中薬になるものゝわかくあるなり
○紫糖ハわかく食へバ秋痛し長虫を生ず

○沙糖(さたう)ハ心肺(しんはい)をうるほし大小腸(ちやう)の熱(ねつ)をさる酒毒(しゆどく)を解(げ)す

○氷糖(こほりさたう)ハ心腸(しんちやう)の熱(ねつ)をさまし目(め)のかすミのふを

氷糖(こほりざたう)

沙糖(しろざたう)

紫糖(くろざたう)

核(さね)

蔕(うてな)

仁(にん)

頭書増補訓蒙圖彙巻之十九

樹竹

此部にハ木竹のるいをのする

○松ハ久しく服をすれバ身軽くして老せず年をのぶる補五葉を俗に唐松といふ○楓ハかへでなりまた鶏冠木とも書せもみぢの事なり補紅葉ハ楮木に多けれ楓ハ中にも勝り

松 まつ

楓 かへで

○檜は深山にありて大木となる白木の木具曲物などみな此木を用ひて宮上ともを又揖ふつくるなり
○圓柏は柔栢也て實は松に似たり尖つてちいさし 但し葉檜に似てしろく色黒く皮あらし
檍栢同
○檉は檉柳なり一名雨師といふ皮あらし

檜 ひのき

圓栢 いぶき

檉 ひろ

○杉ハ深山ニ生ぞろりの大木となる木立直ふて枝葉しげる也煎じて毒瘡を洗ひ水ニ浸して脚氣腫滿を治す

○仙栢ハ槙の木に似て實の形手を合せたるが如し一名羅漢松

仙栢 いぬまき

杉 すぎ

○南燭ハ五月に
ちいさき白き花さき
実ハのち霜後に
紅になるその色
美くしくこの木悪
き夢をみたる時
この木にかたれバその
夢きゆるといふゆへ
人多く手水鉢
のほとりに植るごと
なりとぞ 補

○山茶ハ品類多
し俗につばきといふ
とふに冬花咲くを
紅白花ありつばき
ハ春さく花葉もた
に大にして乏花ハ

南燭 なんてん

山茶 つばき

○櫻ハ一名朱桃又ハ麥英ともいふむかしハ梅にかぎりて花と称じ今ハ花といへバ櫻にかぎる實を櫻桃とて櫻ハ一重なりの外しだ後に八重櫻の種類多くなり今ハ百種に及べり

○海棠ハ花白く紅色の所ありてく西府海棠の類ふいたるものにて三月よ花さく一名海紅花といふ

櫻 さくら

海棠 かいだう

○躑躅は類多し
紫花は二月に花
さく赤つゝじは三月
花さくきんげつゝじは
かし垂く花大に
きいう年々秀
霧島は花濃くみじかく
美なりもちつゝじは
蔦ぶかく四月花さく
つまくれなゐは白花
と紫あり花大にし
てよし杜鵑花は
五月花さく紅紫
又は白紅まじり種々あ

羊躑躅 きんげつゝじ

映躑躅 わうつゝじ

杜鵑花 さつき

○辛夷ハ葉細
長し花白くして
少し紫あり花
を木筆花といふ
春花さく
○木蘭ハ香蘭に
似て花ハ蓮のごと
くうち白くなかを
むらさきなる花を補
木蓮花といふ
○厚朴ハ春紫花
生し四季ともにかはらず
を花さきかいよ実
むすぶ一名榛

辛夷（しんい）こぶし

木蘭（もくらん）もくれんげ

厚朴（こうぼく）ほうのき

補○槿ハ芙蓉の葉に似て小さし薄紅白あり八重ひとへあり七月花さく一名日及
○芙蓉ハ水ニ生ずるを水芙蓉といふ荷花なり木を木芙蓉といふ
補きはちすともいふ七八月花ひらく

槿 むくげ

芙蓉 きはちす と

一名拒霜

○蜀漆ハ秋紫の花さく花中に黒き実あり根を常山といふ六月に葉をとる食すべからず毒ありくもの
○女貞ハ冬をしのぎてあざやかにして女の貞節に比して名づく一名蠟樹
○冬青ハ冬月青くみどりなりとて冬青といふ薬にもちゆる

蜀漆 くさぎ

冬青 もちのき

女貞 ねずもち

○粉團ハ葉ハまるく花白くして手毬のごとし四月ニ花さく玉綉花とも綉毬花ともいへり 補 がくといふ木も粉團に似たる花あり大でまりこでまりの二種あり

○紫陽ハ又月花 補 さく粉團に似て色いろ／＼ありうす紅白あり葉はてまりのごとく似て葉あさき花青木の長三四尺

粉團 てまり

紫陽 あぢさゐ

○薜茘ハ一名を木饅頭といふ又鬼饅頭といふ 補 秋のすゑにまるき実のる中むなし

○梔ハ 補 花白く六月にさく実ハ黄なる染草に用ゆ上焦の熱をくだし痰を治す花ハ薝蔔といふ

薜茘 まさきのかづら

梔 くちなし

○錦帯花ハ四月に花さく揚櫨に似て花ハ葉ごとにつく大かたの花開始ハ白く後に赤く成
○揚櫨ハ葉こまかく花も小く木ハかたし黄白なるをひらけり実ハ莢をなす
空疏同 補
○棘ハ山野に多し

錦帯花 やまうつぎ

揚櫨 うつぎ

えだ多く刺ありて
ぞ又月白き花咲
棘刺棘鍼並同
○角楸ハつのひさ
ぎといふ実ハさゝげ
のごとく細長くふさ
となりて毛茸密
て角なるゆゑ
○木槵ハ五六月に
白きはなさく実生
いまだく熟すれば
黄なり

○椶櫚ハ六七月よ莟ハ白花さく八九月に実をむすぶかゝら魚の子の如し

補 此木の毛を帚につくる

○黄楊ハ葉こまかく小花さく実なし四季ともに液を木め細くまし其黄也

補

椶櫚（しゆろ）

黄楊（わうやう）つげ

○衛矛ハ三月に
茎のはしより
三四尺ハかりも秋の
ころ紅葉すと茎に
葉のはのやうな物
あり今のにしきゞ
一名鬼箭
○鐵蕉ハ蘇鉄
かまた一名鳳尾蕉
とかつく琉球より
出ると番焦と云

鐵蕉（てつせう）
そてつ

衛矛（ゑいぼう）
くそまゆみ
にしきゞ

○構木ハ實を塩數子といふ虫ありて房をむすぶを五倍子といふ是ふしなり
○楮ハ皮を製して紙にすくなりかうぞといふ穀構なんびふ同
補 七月七日児童此葉に詩歌を書二星にそなふ

構木 ぬるで

楮 かぢ

榛 はり

○梣ハ葉ねぞ 補
ふ似て秋こま
かき実をむすぶ
び木より黒きを
ぬるうるしとする
みぞうにゐるへきま
けるあり

○木犀ハ一名岩
桂花といふ花白
を銀桂といひ黄
なるを金桂と云
補
香つよき花なり

木犀
ろうのき

○桐(きり)は琴(こと)につくる四月花さく白く薄紫(うすむらさき)なるも大木(たいぼく)あり履(くつ)をつくるにはなほ用ゆ
○梧桐(ごとう)は皮(かは)青(あを)く子しかし実(み)を胡椒(こせう)のごとくなるに青きありて花を
あらして黄(き)なり
櫬(しん)同 補
○櫟(くぬぎ)は葉(は)いとしき

梧桐(ごとう) きり

桐(とう) きり

に似て小し
又栗(くり)に似(に)たる実
を橡実(ぞうじつ)といふ俗(ぞく)
にどんぐりといふ也
本草に薪(たきぎ)とし
て最上(さいじやう)なり
○槲(こく)は一名樸樕(ぼくそく)
といふ実を橡櫨(きうぞう)
子(し)といふ俗(ぞく)にかし
といふ品類(ひんるい)多し
本草にもその搭(かう)
に述るなり

橡(ぞう) くぬぎ

槲(こく) かしは

○蘗は葉呉茱萸に似たり実あをけれど皮はそとしろく黄なり黄蘗といふもこれなり
○紫荊は葉大きくして花むらさきなり夏花ひらき秋実のる実を紫珠といふ
○石南は石の南陽に向ふ所に生ずるゆへに石南と云葉枇杷のごとし

○狗骨ハ木のちゝへ白くして狗の骨乃如し依て狗こつといふ又柊木とも書なり

○瑞香ハ葉厚く春花さくかをり丁香のごとく又黄白紫あり

○接骨ハ小便を通じ水腫を治ス一名本蒴藋といふ手足の痛ハ煎じ洗ふてよし

狗骨（くこつ）ひいらぎ
猫児刺
杠谷 並同

接骨（せつこつ）にはとこ

瑞香（ずいかう）ぢんちやうげ

○桒は一切の風気を治し中を調へ気をくだし痰を消し胃をひらき食をすゝむ

補 楝は葉槐のごとく三四月に花さく薄紫色あり俗にせんだんと云実は金楝子といふ

○五加は荒につく あてうこぎは皮膚の風湿をさる 五隹五花同

楝 せんだん

五加 うこぎ

桒 くは

○枸杞は皮膚骨
節の風をさり熱
毒をさる又その胜
をくらふ
○紫薇は花紅に
なる七月さく百日
紅ともいふ 補 猿すべりとも
名づく
○樟は楠に似たり
四季ともにあをき木なり
細き花さく 補 楠木も
此類なり大木にし
て数年をへて
其木石となる

○石檀は葉槐に似たるゆへ樗木苦櫪並同皮を秦皮といふ
○合歓は五月より花さく又紅白也実はさやあり葉補昼ひらきて夜去かむすふゆへ一名夜合樹といふ
○楡は赤白二種あり三月に莢を生ずるかたち銭のごとし嫩き実を楡莢楡銭といふ

楡木 にれ

石檀

合歓 ねぶのき

○葉ハ木のえなり
嫩葉ハわかば紅葉ハも
みぢ落葉ハおちば
病葉ハわくらば
○株ハかぶなり俗
にいふハきりたる木を去て
入を根といひ土を出
るを株といふ
○蘗ハ木のこうゑ
への事なり枿𣎴
ならびに同
○芽ハ草のめざし
いづれもいふ萌芽と
もいふ又さしめとも云

○楊ハ黄白青赤の四種あり白楊ハ葉まるく青楊ハ葉ほそし赤楊ハ霜おくごとく葉も赤くそびゆ水楊ハ川やなぎなりみきいれなどを

○寄生ハ諸木よりの枝のある木なきにも生る木なり木によりて名を異にす又寓木ともいふ

○柳ハ垂條なり

柳 りう しだれやなぎ

白楊 はくやう まるやなぎ

水楊 すいやう かはやなぎ

楊あり花白し柳
檉ハ柳のまたあり
○槐ハ葉ちいさく花
ハ黄にして実をと
りて染に用ゆ又莢槐
さやを槐角といふ
○棶椋同一名郎
来といふ葉ハかし
て物にみだれて実
をいだすを
○栴檀ハ葉槐のご
とく皮青し黄檀

白檀紫檀赤檀
黒檀のこからあり
伽羅沈香ハこの木
朽てあるなり
○皂莢ハ葉槐に
似たり枝にとげあり
莢ほそく黄なる
莢ハ皂角子とも書
○柴ハ小木散財
なるを俗にしばと
○薪ハ粗き薪と云
こゝろもちの杣薪と

槐 ゑんじゆ

皂莢 さいかし

椋 むく

といふ又つまぎ
○竹は六十一種あり
六十年にして一度
花さき実のり枯る
補 是をじねんと入と
いふ花咲てゆづり
といふ枯て是れ又
ほすど
○筍は笋同
食をまし腸を利し
痰を消し胃を和
やぶし水道を通

栴檀（せんだん）

柴（さい）しば

伽羅（きやら）

薪（しん）たきぎ

し氣とすそ
○篠ハ小竹なり竹
の根より生るゝ小さく
とがれなり
○箬ハ山に生ずる
さゝなり葉大にて長
二尺ばかりあるハ葉にて
粽をつゝむ篛同
○篁ハ竹の苗なり
たかむらともいふ
○蘆竹ハ葉大にして
て芦に似るなり

竹 ちく たけ
淡竹 たんちく まだけ
若竹
篠 でう しのざく
筍 じゆん たかんな たけのこ
箬 ざく さゝ

秋芦竹ともいふ
○椶竹ハ一名実竹
葉椶櫚に似たるを
杖又柱杖につくる也
○扶竹ハふたゆ竹
かうし雙竹とも天親
竹とも又相思竹とも
いふなり
○紫竹ハ斑竹とも
いふ舜のきさき娥
皇女英のなみだが
かゝりて染られしそ

篁 くわう たかむら ぶけ

蘆竹 ろちく よしたけ しのびだけ

みつるといふ
○無節竹(ひせつ)はふしなき
のらうにちりはな
竹なり
○篗(そく)はさゝめづりと
いふ竹の実(み)なり一名
竹米(ちくべい)補(ぞく)に俗またいふ
おほくなりとて竹の病(やまひ)
かれて其の中に米(こめ)
のごときものあり
○籜(たく)ハ竹のかはなり
又竹皮(ちくひ)とも箯(べんひ)ともいふ

椶竹(そうちく) しゆろちく

扶竹(ふちく) ふたまたぶり

紫竹(しちく) むらさきだけ

もと

○筒はたけのつゝ筩同竹節たけのふしなり

○篾はたけのわをいふ俗にはたがといふ篾筠同

○幹は木の心なり俗にはみきといふ

○根は木の根なり柢同本とも

○枝は木のえだなり

[illegible] ふく さゝめぐさ

籜 たく たけのかは

筒 とう たけのつゝ

篾 べつ たけのわとも たけのたが

無節竹 ぶせつちく らうどけ

柯同かえだまたと
條といふハえだなき樹の
ほそき枝といふ
○梢ハ木のこずゑなり
杪同
○炭ハおこりのきえたるなり
烏銀ともいふ稼炭
いけしむる
○柹ハこけら榾柮ハ
きのきれ鋸末ハ
おがくずなり
梢こずゑ
枝えだ
幹みき
炭すみ
根ね
柹こけら